



# 資料館だより

No.35  
2011年  
3月号

過去と未来がひびきあう

ようこそ、エコミューズへ

[www.aozora.jp/ecomuse/](http://www.aozora.jp/ecomuse/)



西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

## 環境省職員 研修受入れました

日にち 2011年2月9日(水)~10日(木)  
テーマ 大気汚染公害被害の現場  
とあおぞら財団の見学

参加者 環境省、近畿地方環境事務  
所、(独法)環境再生保全機構の  
職員

1日目12人 / 2日目9人



感想を出し合う参加者たち

1日目(9日)

13:00 あおぞら財団集合

13:00~ 西淀川公害の概要を説明

DVD 西淀川公害裁判をたたく「公害経験を語り継ぐ」視聴

13:30~ 公害患者の話 和田美頭子さん

13:45~ 森脇君雄理事の話「公害反対運動から地域再生へ」

あおぞら財団活動紹介

15:30~ 西淀川高等学校にて環境教育、菜の花プロジェクトについて紹介

17:00~ 感想、ふりかえりワークショップ

2日目(10日)

9:30 あおぞら財団集合

9:30~ 村松昭夫弁護士(財団理事長)「西淀川公害訴訟と現在の活動」

11:30~ デイサービスセンター「あおぞら苑」見学、昼食

13:30~ 自転車で西淀川区内フィールドワーク

15:30~ まとめ、成果発表

17:00 解散

現場を見て、わたったこと、学んだことを仕事にいかしていきたい」「公害は過去のものではないことがわかった」「また、来年も来ます!」といった言葉が聞かれました。

研修生の方々が、西淀川公害や地域再生に関して、いろんな立場の人たちの話を聞き、区内をまわった上で、感じたこと、わかったこと、アイデアなどを発表すると、それを聞く私たち財団スタッフにとっては、外からの目で見たと、西淀川区やあおぞら財団の姿を感じることができます。

自転車で区内をまわったとき、国道43号沿いや、工場集積地では、排ガスや臭いで自転車で走ることがつらくなった、といった感想がありました。数字や文字だけではわからない現場での体験を、環境省のみなさんと共有できてよかったと思います。

パネルを手に授業をする筆者



## 天野が語る、この資料 「知っていますか」パネルと 「手渡したいのは青い空」ビデオ

ここ何年かは西淀川区内の姫里小学校、香蓑小学校、出来島小学校の5年生の社会科で授業をさせていただいています。授業の導入は「知っていますか」

パネルの1番、「関西電力の煙突の向こうは西淀川区」の題字の部分を隠して提示します。

「この写真を見て気がついたことを発表してください。」

まず何も説明しないで児童に注目させます。もうもうと煙を吐き出す6本の煙突に気づかせて「どの写真だと思いますか?」と発問を続けます。出来島小学校で以前に授業をしたときは「中国の写真」と答えた児童がいました。北京オリンピックの準備をする中国の急ピッチで進む工事の映像が何度もテレビで流れていたときでした。この写真に注目させ、問題意識を持たせてから「実はみんなの住む西淀川区を尼崎の上空から写した写真です。」と説明して隠していた題字を見せることにしています。「この煙の下で西淀川区の人々は生活しているのです」としてパネル2番、3番を見せて「このように喘息で一番苦しんだのはお年寄り子ども達なのです」と説明します。

次に「手渡したいのは青い空」のビデオを示して「このビデオは佃小学校で教室風景を撮影しました。西淀川の子どもの登場します。」と予告してからビデオを写すことにしています。

以上のようにエコミューズにある「知っていますか?西淀川の公害」パネル(2001年製作)と「手渡したいのは青い空」ビデオ(2005年製作)は貴重な教材です。しかし、これらの資料は区内の全小学校に配布済ですがあまり活用されていないのが現実です。ビデオには佃小学校の教室やパソコン室、歌島橋交差点や姫島診療所、財団も撮影されています。喘息で苦しむ患者さんや国道43号線の映像なども位置づけられているところが重要です。これらの資料が教室の現場で活用されることを願うばかりです。

エコミューズ資料整理スタッフ 天野憲一郎

# もりもとまきの アーキビストの目 所蔵資料紹介

## 四日市公害の現在 記録人・澤井余志郎さん

今回は、エコミューズ所蔵の映像資料のなかから、昨年11月に東海テレビで放送されたドキュメンタリー『記録人・澤井余志郎 四日市公害の半世紀』(DVD、カラー51分、四日市再生「公害市民塾」より寄贈、資料No.312)を紹介しします。

四日市大気汚染公害は1960年代、四日市コンビナートの排煙によって引き起こされ、多くの住民が呼吸器疾患

に苦しみました。澤井さんは40年以上にわたって被害者の訴えに耳を傾け、記録集を発行し、市民やマスコミに公害の実態を知らせ続けてきました。番組では、そんな澤井さんの活動に一年間密着しながら、四日市の現在の姿ぜん息発作と闘いながら語り部活動に取り組み公害患者や、「公害患者」として認定されず救済されない被害者の存在、工場排水による汚染で魚が住めなくなった海、環境を軽視する企業の不祥事などを映し出していきます。

きれいな空気や美しい海を取り戻し、本当の意味で公害を克服するためには、いったい誰が、何をすべきなのか。自分には、何が出来るのか。多くの問いを投げかけられるドキュメンタリーです。



青い空のために、記録しつづける

番組公式HPはこちら  
<http://tokai-tv.com/kirokunin/>

ブログ版 <http://aozorabsw.exblog.jp/i11/>

アーキビストとは、文書や資料の収集・整理・保存に関わる専門家のことです。



## やかた 館 訪問記

その16 .  
西淀川区に洞窟が！？  
洞窟ハウス  
大阪市西淀川区野里  
<http://www.sawaisao.com/index.html>

突然ですが、西淀川区に「洞窟」があります。洞窟研究家・沢勲さん(大阪経済法科大学名誉教授)が自宅の向かいの空き家を借りて、「洞窟ハウス」にしています。ハウスには、洞窟に関する資料や写真、模型などが展示してあり、見学することができます。火山の噴火や洞窟の仕組みをあらわした模型は、工事現場で使用する赤いコーンを使うなど、沢さんの工夫が随所に見られました。沢さんには、30年くらい前の野里地域の様子を写したスナップ写真や、家族写真を見せていただきました。お子さんが小さい頃の写真を説明するとき、もう涙が出るくらいかわいいわ」とおっしゃっていました。洞窟に対しても、家族に対しても、愛にあふれる沢さんでした。



展示を説明する沢勲さん

(2011年2月16日訪問 / 鎗山)

＊お知らせ＊  
エコミューズ活動資金  
「ハモン基金」  
寄付協力をお願い  
エコミューズを支えてく  
さい。あなたの寄付金は青  
空へつながります。  
寄付の方法  
郵便局からお振込いただ  
けます。また、直接エコ  
ミューズにお越しいた  
結構です。  
【口座】十万円 / 一  
千円 / 一  
〇九六〇一  
九三

加入者名「あぞら財団  
通信欄に「ハモン基金」の  
寄付」と記入ください。  
一口の金額はお選びくだ  
さい。  
ボランティア隊  
「エコミューズ」募集  
あなたも「エコミューズ」に  
入っちゃおう！資料整理や  
展示、イベントの手伝いなど  
活躍の場がいっぱいあります。  
交通費、実費支給(上限  
2000円)  
どうぞお気軽にお問い合わせ  
ください。



エコミューズの活動は  
Hamon基金によって支えられています。



## 編集後記

徐々に復活した「館訪問記」。資料館だより、バックナンバーをめくると、最後に掲載したのはNo.17(2008年3月号)でした。「資料館だより」をパラパラめくると、こんなことあったなあ、あんなことあったなあ、と日々の出来事の積み重ねが見えます。同時に、所蔵資料の紹介では、過去の資料について語られていて、「資料館だより」という一枚の紙の上で、いろんな時間軸が重なり合っているんだなあ、と思います。(Y)

資料館だより No.35  
2011年3月号(隔月1日発行)  
発行所 あぞら財団付属  
西淀川 公害と環境資料館  
(エコミューズ)  
連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1  
あぞらビル5F(〒555-0013)  
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885  
Email: webmaster@aozora.or.jp  
<http://www.aozora.jp/org/ecomuse/>

エコミューズは  
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害、環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材、ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください。  
開館 月曜日、金曜日(祝日は休み)  
10:00AM ~ 5:00PM [要予約]  
利用 図書貸出し期限は2週間  
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ